

## 「カノーパスに挑む(6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

その後いくら待っても、「地平線の赤い一等星」は現れなかった。この観測地からでは、カノーパスはやはり地平線の下なのだろうか？



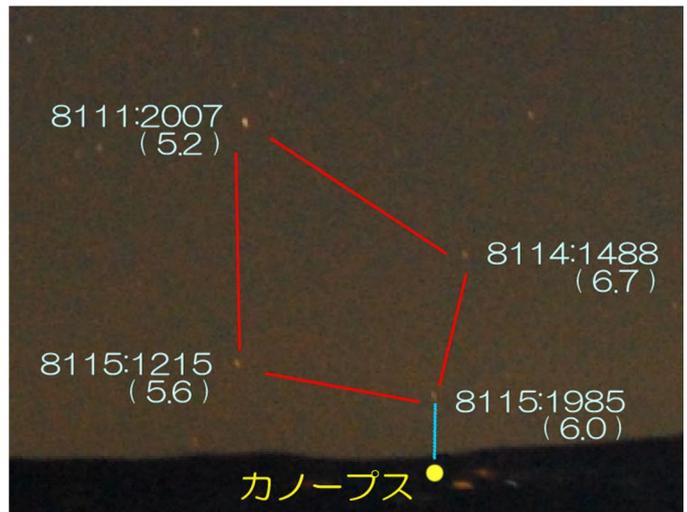
この日は大晦日。このあと友人宅で、「年越しそば食べ放題」の恒例行事がある。しかし、地形の隙間から一瞬でもカノーパスを見たいと思い、南中時刻までは頑張ることにした。



気温は氷点下 12°C。私は車の中で暖をとりながら、時折車外に出て、双眼鏡で子午線付近の地平線を観察した。恒星は、5等星や6等星でさえ、地平線ギリギリまで見えている。従って、大気減光や、街灯り(軽井沢町)の影響ではない。カノーパスが出ていれば、確実に見えているはずである。



実は帰宅後に調べてみたところ、衝撃の事実が判明した。上図は、カノーパス付近の星図である。恒星同士の関係(星のならびの傾き)は、この日のカノーパス南中時で計算してある。カノーパスのすぐ上に、特徴的な四角形の星の並びがある。いずれも5等星か6等星だ。恒星間の数値は、視角度(離角)である。カノーパスは、一番下のりゅうこつ座 8115:1985 星(6.0等)の真下、視角度わずか 0.5° のところにある。



帰宅後に、カノーパス南中時に撮影した写真を部分拡大してみた。星図と同じ星の並びを探し出すのに苦労したが、ようやく見つかった。恒星の明るさや位置関係から、星図と同じ星の配列である。やはり、カノーパスは地平線下だった。それも**わずか 0.2° !!** 0.2° というのは、100m 先のサッカーボールを見るのと同じ角度である。その場でジャンプすれば見えそう。実際に私は、無駄とわかっていながら、車に積んであった脚立にのったものである。観測地の標高があと 50m 高ければ見えただろう。私は地団駄踏んで、その衝撃で、もう少しで浅間山が噴火するところだった。当然ながら、これで終わるわけにはいかない！